

平成22年度宅地建物取引主任者本試験 解答予想

(H22.10.18現在)

下記の正解番号は解答予想として、また、合格予想点は問題の難易度から、いずれも当社が予想したものです。
試験結果等が確定したものではありませんので、ご注意ください。
また、本解答予想や試験内容に関するご質問は、対応いたしかねますので、予めご了承ください。

問題1	問題2	問題3	問題4	問題5	問題6	問題7	問題8	問題9	問題10
2	4	1	3	4	3	1	2	2	3
問題11	問題12	問題13	問題14	問題15	問題16	問題17	問題18	問題19	問題20
4	2	4	1	3	1	4	4	3	3
問題21	問題22	問題23	問題24	問題25	問題26	問題27	問題28	問題29	問題30
1	2	3	3	1	4	2	3	4	4
問題31	問題32	問題33	問題34	問題35	問題36	問題37	問題38	問題39	問題40
2	1	4	3	2	4	1	1	4	1
問題41	問題42	問題43	問題44	問題45	問題46	問題47	問題48	問題49	問題50
4	3	1	3	4	3	3	2	2	2

合格予想点 35点±1

< 試験概要 >

全般的な難易度の印象は、権利関係の問題は例年と同じレベルの出題であったと思いますが、宅建業法の問題が例年よりもやや易しかったように思われます。さらに、景品表示法(問47)と諸統計(問48)が難しかったので、これが逆に合格最低点を押し上げる要因になると考えられることから、合格予想点は前年より2点ほど高い35点前後と考えます。

各出題分野における今年の特徴的な出題としては、権利関係では、民法で、比較的最近の判例内容を問うていました(問6の正解肢3は平成10年、問9の判決文問題は平成8年の判例)。また、問7の債権者代位権に関する初の単独問題での出題は、平成20年問5の詐害行為取消権に関する初の単独問題での出題に次ぐものです。

法令上の制限では、農地法の問題(問22)で、正解肢以外はすべて昨年の農地法改正内容からの出題でした。

宅建業法からの出題内容は、個数問題が2問あったものの、内容的には例年よりやや易しかったと思われます。

なお、今年から出題されるとされてたいわゆる住宅瑕疵担保履行法の問題(問45)は、ほぼ予想範囲内の出題内容でした。